

ボケのはじまりと家族の対応

介護老人保健施設ふじあく光荘
施設長 馬場 勢子先生

ボケの主たる症状は物忘れです。単なる物忘れといっても「今日は何年何月何日ですか?」「ここはどこですか?」といった質問にまったく答えられない場合は、一般的にボケ症状としてよいでしょう。昔のことは思い出せるが、新しい出来事は覚えられないことも特徴です。言葉が出てこないなども挙げられます。

異常な行動としては、自宅にいるのに家に帰るといったり、四六時中起きている、あるいは寝ている、食事をしたのにしていないと言う、性格が変わってしまったようだ、などがあります。

このようなことがあったときには、まずかかりつけ医の受診をお勧めします。場合によっては、身体の具合が悪かったり、飲んでいる薬によって一時的に症状が見られたりすることもあります。この際には、正しい処置で直ることも多いので必ず相談してください。

もし、ボケと診断されたら、在宅介護支援センターや居宅介護支援事業所などの介護サービスの専門家に相談してみてください。ご家族の介護負担を軽減することが必要ですし、何しろマンパワーが不可欠となります。

ボケの特効薬は残念ながらありませんが、ご家族や介護者の接し方で悪化を抑えることはできます。ボケているからと子ども扱いをするような態度はいけません。また、できることはなるべく自分でやってもらいましょう。骨折をしないようにと、寝たきりにしてしまってもいけません。時間がかかってもペースに合わせてあげてください。わけの分からないようなことを言っているように感じても、否定せずに受け入れてあげてください。

「ボケの介護は根気と忍耐」と言うと、非常につらいイメージになってしまっていますが、介護者が一枚上手の役者になったような気分で見守る、受容するといった態度が必要となるのです。